

授業の具体的展開例

〈話し合いによる集団解決〉

- T：帰った人は何人ですか。
 C：6人です。どうですか。
 C：同じです。
 T：それでは、帰った6人を白色のブロックで並べましょう。
 C：ワークシートにブロックを並べる。
 T：黒板にブロックを並べる。
 T：6人が帰っても、家の中には人が残っています。プリントの家を開けて、残っている人のブロックを並べてみましょう。
 C：ワークシートにブロックを並べる。
 T：6人が帰って、家の中は何人になりましたか。
 C：8人です。どうですか。
 C：同じです。
 T：家の中を見てみましょうか。数えてみましょう。
 C：1, 2・・・8
 T：8人残っていますね。では、今日たずねられていることは何でしたか。
 C：はじめの人数です。
 T：そうですね。それでは、どうやったらたずねられていることがわかりますか。考えコーナーに書いてみましょう。
 C：6人と8人をたす。
 C：帰った人と家に残った人を合わせる。
 T：式と答えを書いてみましょう。

児童のワークシート

かくれた数は いくつ

名前 ()

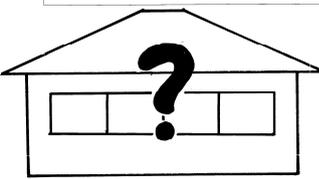
めあて

① 子どもが いえで あそんでいました。そのうち 6人がかえったので、8人になりました。はじめは なん人もいましたか。

しき)

こたえ

かんがえ コーナー



「活用」の力を育てる評価の工夫

本単元は、加減の逆思考についての学習である。逆思考の問題は、児童にとって大変抵抗がある。そこで、ブロック操作によって、文章を具体化していく。また、ブロックをテープ図に置き換え、テープ図から数量関係を見いだしたり、数量関係をテープ図に表したりしていく。

本時は、分かっていること、たずねられていること、言葉の整理しながらブロック操作を行い、問題文を具体化できているか評価したい。また、自分の考えを書くことで一人一人が明確に考えを持てるようにしていく。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、逆思考の問題を考える1時間目であり、問題をイメージして具体化していくことが難しいと考えられる。よって、分かっていること、たずねられていること、言葉の整理しながらブロック操作を行わせ、考えを持たせていきたい。

「活用」の力を見取る具体的な規準としては、

- ①文章問題を読み、ラインを引き、ブロックを操作することで自分の考えを説明することができる。
- ②ブロックを操作して、立式し、答えを求めることができる。
- ③気付いていなかったことを、説明を聞くことによって理解することができる。
- ④説明を聞いても理解できない。

が、考えられる。④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。次時までには、②の状態になるように、具体物を用いながら、適用問題の場面を理解させたい。

② 子どもが いえで あそんでいました。そのうち 11人がかえったので、5人になりました。はじめは なん人もいましたか。

しき)

こたえ.

～ふりかえり～

①すすんで はっぴょうを しましたか。

②ブロックをならべて、かんがえられましたか。

③きょうの 字しゅうは よくわかりましたか。

板書例は
こちら

CLICK

本時の流れへ

HOME

評価問題